

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 21 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	管理運営費（伝承館）							
担当課係名	角館榊細工伝承館	係	作成者	佐藤孝子				
総合計画での位置づけ	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点の町			総合計画のページ			
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし						
	主要施策	観光客受入体制の整備			29			
予算費目	一般	会計	7款	商工費	1項	商工費	5目	伝承館費
事業期間	平成	年度	～	平成	年度	新規／継続の区分		新規
性質区分	<input type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input checked="" type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理							
根拠法令等	仙北市立角館榊細工伝承館並びにふるさとセンター条例							
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務							
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営（一部民間委託） <input type="checkbox"/> 民間委託（全部） <input type="checkbox"/> 補助							

【事務事業の実施内容】

事業の対象（誰のため・何を）	仙北市民、町内外の小学生、中学生、高校生観覧者
事業の目的・意図（どういう状態にしたいのか）	仙北市民の歴史、文化、伝統工芸等への幅広い理解を得られるよう支援することを使命とする。
事業の内容（どのような業務、活動を行うのか）	①年6回の特別展の実施 ②総合学習等を支援する教育普及活動 ③文化財の調査研究 ④歴史資料等の収集保管 ⑤館内外の環境整備の充実

【事務事業の推移】

	項目		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	
	効果	活動指標	開館総時間数	目標	日	357	357
実績				日	358	358	358
達成度				%	100.3%	100.3%	100.3%
成果指標		来館者数	目標	人	72,000	56,000	50,000
			実績	人	66,080	48,899	52,394
			達成度	%	91.8%	87.3%	104.8%
投下コスト	項目		総事業費	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	21年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)			20,143	18,015	18,765	
	人件費(B)			18,563	18,228	18,531	
	職員数			2.30	2.30	2.30	
	職員平均人件費			8,071	7,925	8,057	
	(A)+(B) 投下コスト			38,706	36,243	37,296	
	財源内訳	国庫支出金			0	0	0
		県支出金			0	0	0
		地方債			0	0	0
		その他			20,201	15,174	0
一般財源			18,505	21,069	37,296		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)			108,117	101,237	104,179	
	市民1人当たりのコスト(円)			1,231	1,167	1,219	

【事務事業の今までの成果】

昭和53年9月開館以来、延入館者数399万人余り、延入館料9億7,300万円余りとなつている。また館蔵品は購入作品759点、寄贈品、1,439点で合計2,198点となつている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	一部で指定管理者制度の導入もみられる。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	郷土芸能、音楽活動等の発表の場としての利用などが寄せられている。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	経済生には考慮の余地があるが、文化や歴史を後正に伝承するという意味合いからは、その必要性、有効性には揺るぎないものがあると判断した。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

--

【二次評価】

判定	判定に至った理由
C 2	来館者数に若干の改善がみられていますが、市が負担する経費は大幅に増加しています。委託業務の範囲拡大、長期契約の導入及び指定管理者制度の導入を行うなど、維持管理経費の削減が必要と考えます。

